

「シジュウカラの営巣(9)」

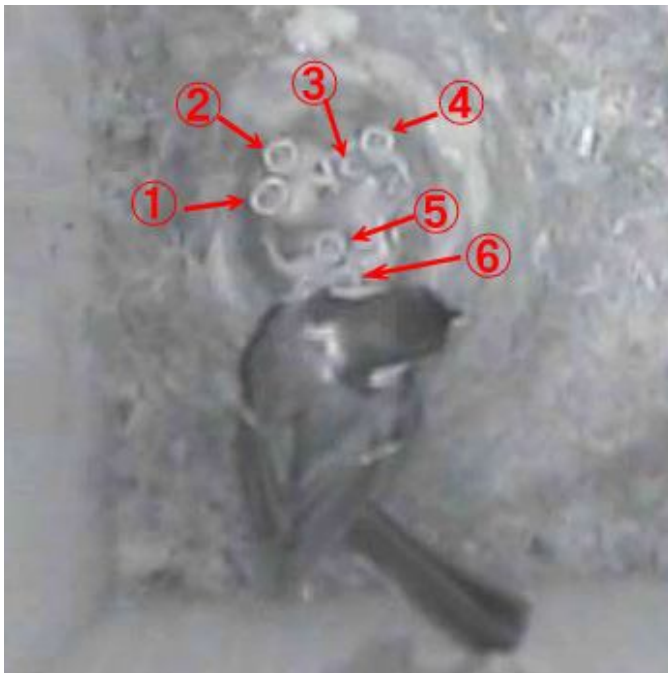
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



1 卵目の孵化から3日後、すべてのヒナが孵化したと思っていたら、ヒナたちの隙間に1個だけ卵が残っているのに気付いた。孵化後の卵の殻は、すぐに親鳥が食べてしまうので、殻ではない。



他の鳥類と同じように、シジュウカラのヒナも親鳥が来ると、その物音で一斉に上に向かって口を開ける。試しに、巣箱を軽く叩いて音を出しても、同じ行動が見られる。写真は親鳥が巣箱に入った直後の様子だ。ヒナの開いた口が6つ見える。どうやら7個目の卵は無精卵か、抱卵途中で死んでしまったようだ。親鳥も気づいているだろうが、そのままにしているようだ。



ヒナが孵化すると、親鳥は一気に忙しくなる。6羽分の餌に加えて、自分のエネルギー補給もある。頻繁に巣箱の外に出て行く。巣箱から顔を出すと、周囲の様子を伺って、危険がないかを確認する行動が見られる。その後、巣箱を蹴って一直線に飛び立つ。

巣箱から出て、餌を採って戻って来るまで、どのぐらいの時間がかかるか観察してみた。短い時は実に10秒以内、どんなに長くても数分以内に戻ってきていた。餌の虫がいる場所を、正確に知っていると思えない。1時間ぐらい観察していると、いくつかの「飛行経路」があるように見えた。きっと、お気に入りの餌の採取場所があるのだろう。



ヒナが孵化すると、オス親も給餌を手伝うようになる。メス親は、孵化後も抱卵時と同じように、産座を覆っている。まだ羽毛が生えそろっていないヒナを保温する為だ。特に今年は、7月とは言え、20°Cを超えることはなく、朝は10°C近くまで下がる日もある。日中はオス親も頻繁に餌を運び込む。オス親がヒナに直接与えることは稀で、一旦メス親が受け取ってから、ヒナに与えることが多い。